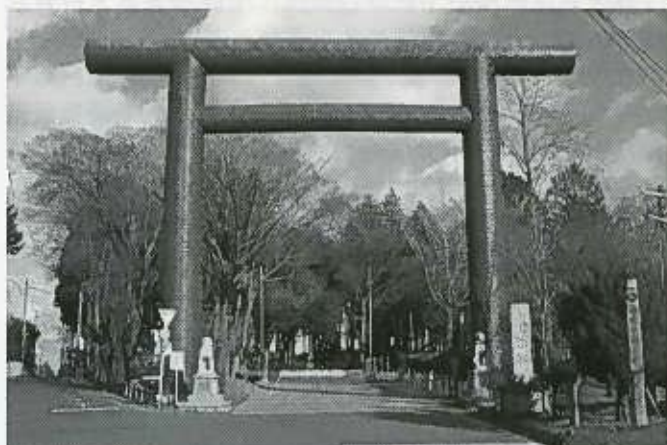


十和田市立 新渡戸記念館だより

太素塚再発見

写真でたどる140年の歴史

大きな鳥居型の門が迎える緑の社「太素塚」。十和田市開拓の祖・新渡戸傳をはじめ新渡戸三代が祀られる墓所のほか、新渡戸記念館や銅像が建ち並び、先人たちの偉業を伝えています。太素塚が今の姿になるまでの約140年の歴史を写真で紹介します。



1866 慶応2年「太素塚」建立

太素塚は、慶応2年(1866)7月22日の建立で、その時建てられた墓石と灯籠、花立、御手洗は、新渡戸傳の長男・十次郎の手配で大阪から取り寄せたものです。当時その奥には瀬戸物を焼く窯があり、一带は「瀬戸山」と呼ばれていました。瀬戸山には文久2年(1862)3月、慶応2年9月に松などの植樹が行われていますが、それ以外整備は行われず、太素塚は若木にかこまれてひっそりと立っていたと思われます。

太素塚の墓石。灯籠、花立、御手洗も全て慶応2年以後のもので、「播州御影石」という非常に希少な石でできています。



1871 明治4年新渡戸傳埋葬後、墓所としての整備が進む

明治4年(1871)9月27日新渡戸傳は亡くなり、太素塚に埋葬され、周りには柵が立てられました。翌年3月から4月にかけて町の人びとや旧斗南藩士により松や桜の植樹が行われ、「太素の社」としての環境整備が進められました。そばには拝殿も建立され、太素塚の墓石にはお堂がかけられました。この墓所の整備は、同年4月27日に予定していた新渡戸傳命日祭「太素祭」にあわせて急速に進められたものです。



◀明治時代の太素塚。柵に囲まれ、お堂がかけられています。大正時代のはじめ頃にはお堂が取り払われ、石は現在のように高い台座に乗せられました。



昭和10年代の拝殿(右)。隣は新渡戸文庫。拝殿は現在の記念館東側展示室の辺りにありました。

▶ 拝殿はその後、市内藤島の稲荷神社境内に移築されました。



[次のページにつづく]

2005年元朝参りは太素塚へ 12月31日(金) 22:00~元旦1:30

甘酒&お神酒
無料サービスあり

祝新五千円札のふるさと十和田市

★五千円札さよなら企画★

先着100組へ五千円札記念旗3点セットをプレゼント!!

1872 明治5年「照瑤堂」建立

照瑤堂は新渡戸十次郎の長男・七郎が三本木村有志と協力し、十次郎はじめ新渡戸家一族や三本木原開拓協力者の御霊を祀る堂として建てたものです。明治5年(1872)8月8日、稲生町1丁目と2丁目の境を西に一町(約100m)入った所に完成しています。その後太素塚に移築され、明治時代末から大正時代初め頃に撮影した写真には、太素塚向かって左に照瑤堂が写っています。さらに、昭和29年(1954)に新渡戸十次郎の墓をその場所に建立し、照瑤堂は向かって右奥に移動しました。



◀ 太素塚(右)と照瑤堂(明治時代末〜大正時代初め頃)



◀ 昭和59年(1984)照瑤堂は新しく顕彰堂として建て替えられました。



▶ 照瑤堂は市内中心地に残る数少ない明治初期の建築物として軒堂がかけられ、太素塚奥に保存されています。



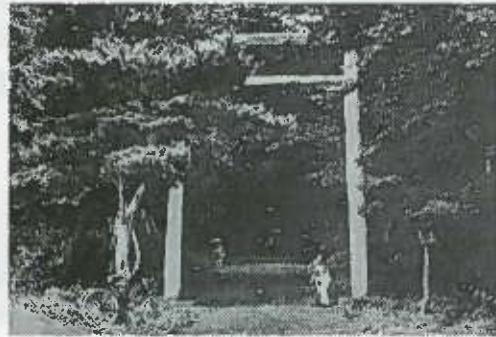
◀ 明治時代の太素塚入口の様子。鳥居はなく、太素塚の手に屋根付きの門があります。



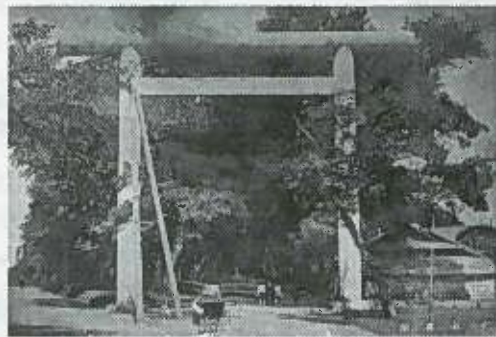
▶ その後、門に加えて太素塚参道入口に冠木門が建てられていました。写真は、明治時代末〜大正時代初め頃の撮影。

明治末〜大正初め 大鳥居の登場

太素塚参道入口に鳥居が建てられたのは明治時代末から大正時代初め頃と思われます。当初は木製で、大きな注連縄が下がっていましたが、大正10年(1922)にコンクリート製の大鳥居に替わりました。昭和43年(1968)5月16日の十勝沖地震で倒れましたが、鳥居は太素塚のシンボルとなっていたため、翌年には市民有志の浄財で再建されました。銅板ぶきの工事が昭和61年に行われ、現在の高さは17m50cmです。



◀ 明治末〜大正時代初め頃の写真。写真から推測すると、鳥居の高さはおよそ8mです。



◀ 大正10年に建てられたコンクリート製の大鳥居

1925 大正14年「新渡戸文庫」建設

新渡戸十次郎の三男・新渡戸稲造博士は、この地域の文化向上のために蔵書約8,000冊を寄贈しました。その保管施設として、新渡戸家ならびに太田家により大正14年(1925)に設立されたのが新渡戸文庫です。文庫は現在の記念館西側事務室の辺りにありましたが、昭和40年(1965)に一層の活動を目指して取り壊し、記念館として開館しました。

▶ 私設・新渡戸文庫。扉には鍵がかけられ、一般公開はしていませんでした。



◀ 昭和40年(1965)開館当時の十和田市立新渡戸記念館。

1933 昭和8年から新渡戸三代の墓所に

昭和8年(1933)新渡戸稲造博士は、カナダ・バンフでの太平洋会議に出席後病に倒れ、ヴィクトリアで71歳の生涯を閉じました。遺骨は東京多磨霊園に埋葬され、遺髪は太素塚向かって右側に埋葬されました。当初、木柱に「新渡戸稲造墓」と筆で書いただけの墓標でしたが、昭和10年、墓石が建立されました。さらに昭和29年(1954)照瑤堂があった場所に十次郎の墓も建立され新渡戸三代の墓所となりました。



昭和8年当時の木柱の新渡戸稲造墓。



▲現在の新渡戸三代の墓所。太素塚は新渡戸傳存命中の建立のため、当初「太」の字の点は刻まれませんでしたが。昭和20年代に故・新渡戸憲之館長が傳直筆の「太素塚」の書を発見し、十次郎墓建立の折に点を加えました。

1958 昭和33年から三代の銅像が仲間入り

現在、太素塚境内には新渡戸三代(傳・十次郎・稲造)の銅像があります。これらは全て野辺地町出身の彫刻家・小坂圭二氏の作品で、昭和33年(1958)に建てられた新渡戸傳翁像は、明治2年(1869)撮影の写真をもとに創られました。新渡戸稲造肖像の五千円札発券に先立ち、昭和58年(1983)傳翁像の左側に稲造の像が建立され、平成元年(1989)にはその奥に十次郎の像も建てられました。その後も、先人の業績を顕彰するさまざまな記念碑やモニュメントが、太素塚境内に建てられています。



▲現在の太素塚。平成15年(2003)には新渡戸稲造ゆかりの「時の鐘レプリカ」が銅像の奥に仲間入りしました。

特集

郷土の文化人

岩館精素



岩館精素は大正時代に、歌人として三本木の文化人として活躍しました。

新渡戸家に数多く保存されていた岩館に関わる郷土資料からその業績を紹介します。

▲父は新渡戸傳に仕えた岩館善八。精素の妹は市内・的場製菓店 的場秀浩さんの祖母、故・たみさん。

歌人として大町桂月と交流

岩館は、長年三本木産馬組合の書記長を務め、地域の馬産の発展に尽しました。歌人としても、馬産地三本木のPRのため、自作の歌を含む馬にまつわる古今の詩歌や里謡を集めた歌集『馬歌集』[明治42年(1909)・翌年増補]を発行しています。また、当時十和田湖の景勝を全国的に広めた、紀行家であり歌人の大町桂月が当地を訪れた際、岩館は十和田湖の東の玄関口「三本木」の文化人として、案内役を務めました。その関わりから桂月と親交があり、十和田湖をテーマとした詩歌を岩館が編集した『十和田歌詩句集』[大正4年(1915)]には、大町桂月が浜名湖から岩館宛てに出した寒中見舞が掲載されています。

岩館の残した郷土の記録

資料を見ると、岩館は大変な記録魔だったようで、地域に関連した新聞記事は細かいものまで切り抜きをとっています。記事の中には大正時代の「三本木新聞」など、現在見ることができない地方紙の切り抜きも多く含まれています。自作、他作の郷土の詩歌を記録したノートも多数あり、岩館は大正時代の地域の文化、世相を知ることができる良い資料を残しています。



▲『十和田歌詩句集』(大正4年発行/著者：岩館精素)



▲『十和田歌詩句集』掲載の大町桂月からの寒中見舞。「蒲団から／頭だけ出す／日出哉」の歌が見えます。隣のページには関連する切り抜き記事が貼られています。



▲『増補 馬歌集』(明治43年 増補発行/発行編集：三本木町産馬組合・岩館精素)

ありがとうございました

市内在住の菊愛好家・瀬川安雄さん、杉山豊美さん、大久保孜さんより10月～11月にかけて菊の鉢植え7鉢を記念館入口に出品して頂きました。



美しい3本仕立ての大菊

関連情報

◆太素塚清掃奉仕

10月3日(日)・11月7日(日) 本瀬戸山老成会 様
 10月23日(土) 十和田市立第三白菊保育園 様
 11月21日(日) 十和田稲生ライオンズクラブ 様
 ありがとうございました

◆10月1日～11月30日までの来館小学校

<十和田市>深持小学校・藤坂小学校・西小学校・松陽小学校・三本木小学校<八戸市>白銀南小学校・城下小学校・鮫小学校<十和田湖町>十和田湖小学校<五戸町>切谷内小学校・南小学校<名川町>名久井小学校<六戸町>六戸小学校<下田町>木ノ下小学校<上北町>第一小学校<東北町>蛭沢小学校<野辺地町>馬門小学校

◆全国博物館大会が中越地震のため中止に

11月18(木)～19日(金)に新潟県での開催を予定していた第52回全国博物館大会は、10月23日(土)に中越地方を震源として新潟県内を襲った新潟県中越地震のため中止になりました。被災地の方々に心からお見舞いを申し上げます。

◆絵地図『美しき流れ奥入瀬川』六戸町より寄贈

版画家・八重樫光行氏が十和田湖から奥入瀬川流域を描いた絵地図『美しき流れ奥入瀬川』を、発行元である六戸町より2冊寄贈いただきました。この絵地図は財団法人むつ小川原産業活性化センター支援事業として作成されたもので、十和田市の部分には新渡戸傳銅像の絵とともに、奥入瀬川を水源とする稲生川開削の歴史を紹介しています。

〈編集後記〉

ホームページを開設して5年、アクセス件数は10万件を突破しました。年の瀬を迎え、まだまだ不況を脱していませんが、これを克服してよいお年をお迎え下さい。新十和田市の誕生をお祝いしております。

◆台湾の“大使”許世楷氏来館

10月16日(土)、台湾において大使館や領事館の役割をする民間の機関・台北駐日経済文化代表處の代表・許世楷氏(津田塾大学名誉教授)ご夫妻ほか代表處関係者5名が、青森県華僑協会会長中山安慶氏ご夫妻の案内で来館しました。館長の案内で館内を見学された許氏は、新渡戸稲造直筆の書などに興味深く見入っていました。許氏は14日に岩手県盛岡市で開催された“新渡戸稲造博士命日前夜祭”(新渡戸稲造博士記念行事実行委員会主催)



の記念講演のため東北入りされ、当館まで足を延ばされたとのことでした。

◀許世楷氏ご夫妻(中央)と台北駐日経済文化代表處の皆さん

活動報告

◆館長講演会

10月30日(土) 2004年度青森公立大学公開講座(青森公立大学) / 11月14日(日) 十和田ロータリークラブ第11回青少年指導者セミナー(十和田富士屋グランドホール) / 12月14日(火) 平成16年度寿大学講座(十和田市中央公民館)

◆すみだ郷土文化資料館(東京都墨田区)企画展『かるた一百人一首から郷土かるたまで』[会期:平成16年9月18日(土)～11月14日(日)]へ、当館所蔵「新渡戸稲造かるたパネル」4点を貸出

◆「生涯学習きらめき講座」職場体験で大深内中学校3年生を受け入れ

市教育委員会生涯学習課では「生涯学習きらめき講座」を主催し、市職員の出張講座や市関係施設での職場体験講座を企画しています。11月10日、大深内中学校3年生4名が「総合的な学習」として同講座を受講し、当館の事務局である十和田市商工観光課での職場体験を希望した伊藤佳恵さんが、当館で小学校団体見学補助などの仕事を体験しました。

発行 太素顕彰会

十和田市立新渡戸記念館

☎034-0031 青森県十和田市東三番町24-1

TEL (FAX) 0176-23-4430

E-mail: nitobemm@hi-net.ne.jp

http://www.towada.or.jp/nitobe/

印刷 株式会社 岩間印刷